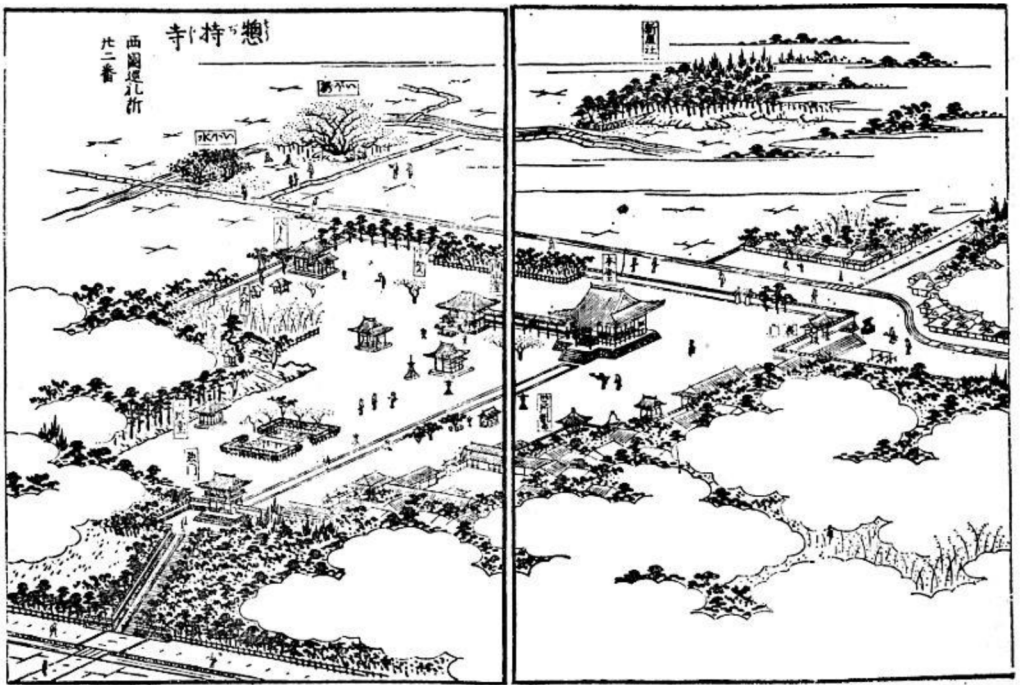


### 3. 総持寺の絵図



補陀洛山惣持寺（ふだらくさんそうじじ）寺領惣持寺村にあり。真言宗古義。  
西国巡礼所第二十二番

本尊十一面千手観世音 和州泊瀬観音化現童子作。梅檀香木長三尺 脇土（左  
春日明神。右天照大神）試観音（方丈に安置す。本尊と同作。長六寸）

奥院（本尊阿弥陀仏。恵心僧都作）山蔭政朝卿廟（奥院にあり）姫塚（奥の院一  
町東にあり。山蔭の室息女等の塚なり）薬師堂（同村の中にあり。薬王寺とす。  
本尊安阿弥作。長二尺五寸）

古鐘銘『朝野群載』に出でたり。その鐘亡びて今新鐘あり。古銘に日く、祖父越  
前守藤原朝臣、心を普門妙智に帰し、首を無礙大悲に傾むけて、墜露法然、閃電  
條爾、納言尊考、先業の遂げざるを軫ひ、善因のいまだ成らざるを欺き、多く、  
黄金を以て入唐使大賀御井に附し、白檀香木を買得し千手観音菩薩を造りて惣持  
寺と日ふ。ここにおいて第二男備前権介公利豊鐘一口を鑄る。時に延喜十二年夏  
四月八日。

寺説に云ふ、惣持寺は宇多帝寛平二年越前太守藤原高房卿の草創にして、一条院・  
後一条院・白河院・鳥羽院の四帝行幸あらせられ勅顧所と成り庄園を賜ふ。厥后  
後小松院宸翰の寺記を賜ふ。今なほ存せり。元龜年中高山右近が兵火に講堂こと  
ごとく灰燼となる。その時尊像火中に在って焚くる事なし。慶長八年六月豊臣秀  
頼公講堂再興ある、奉行は片桐東市正（かたぎりいちのかみ）とぞ聞こえし。

『伽藍開基記』大意、  
摂州島下郡に名刺あり。関西二十三所観音の霊場なり。初め越前大守藤原の高房  
卿志性清慎いこして常に観自在に帰し、承和中筑紫太宰府に遷る。嘗て舟を淀川  
に乗して穂積橋に至る時に漁人亀を多く携へ行く。高房これを悉く贖ふて用水に